

平成 2 8 年第 3 回中津川市教育委員会（定例会）議事録（要旨）

日 時 平成 2 8 年 3 月 3 日（木） 午後 1 時 3 0 分

場 所 にぎわいプラザ 6－1 会議室

出席委員 小栗 仁志 田島 雅子 小幡 隆徳
松田 幸博 大井 文高

事務職員 勝事務局長・原文化スポーツ部長・原教育次長兼学校教育課長
今井事務局次長兼教育企画課長・末木文化スポーツ部次長
小林図書館長兼蛭川済美図書館長・西尾教育研修所長
小椋幼児教育課長・山下子育て政策室長・西尾阿木高等学校事務長
辻発達支援センターつくしんぼ所長兼発達相談室長
大山生涯学習スポーツ課長・川合文化振興課長兼市史編さん室長
川上鉱物博物館長・楯中央公民館長・二村図書館副館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 教 育 長 報 告
4 議 事
5 閉 会

番 号	議 題	結 果
報第 1 号	中津川市指定文化財の指定に伴う答申について	承 認
議第 5 号	平成 2 8 年度中津川市教育委員会の方針と重点について	承 認
議第 6 号	平成 2 8 年度県費負担教職員の任免等の内申について	承 認

【開 会】

【議 事】

【委員長】議事に入ります。大井教育長。

【教育長】議事に入る前に本日の議題に関わって、非公開の議案1件がございますので、そのことについてご了解をお願いします。日程第3、議第6号 平成28年度県費負担教職員の任免等の内申について、でございます。これは県教育委員会との協議の下に進んでいく案件でして、まだ意思形成期間中であるということで、月末の公示までは非公開でいきたいということです。

【委員長】教育長から話がありました通り、日程第3、議第6号については非公開をお願いします。

日程第1、報第1号 中津川市指定文化財の指定に伴う答申について、議案説明をお願いします。川合文化振興課長。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

【委員長】本日、教育委員会の前に中津川市文化財の保護審議会の笠木会長から答申をいただきました。文化財の指定に伴う答申につきまして、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】文化財の指定に関しての大変膨大な量のお仕事お疲れさまでした。会社へ勤めたり役所に勤めていらっしゃる方々は見ることはないと思うんですけど、今東海テレビの「スイッチ」という番組で、中山道をずっと旅しているんです。高井さんというアナウンサーが、ピンポイントではなくて本当に一生懸命細かいところを見ながら旅をしている番組があります。恵那のところから私も録画しながら見始めました。恵那もしっかりと整備がしてあって、中津川に入った途端にちょっと心配になりました。道路標識はどうだろうとか、途中で中山道が消えてないかとか、看板はどうかとか、ひやひやししながら見ていました。中津川に入ってまだ馬籠まで抜けてないんです。まだ数日あると思うので、みなさんも録画して見ると大変勉強になります。中津川市の私たちが当たり前に見ていることをとても新鮮に感じてください非常に嬉しく見ておりました。一つ残念なことが看板で、本町の入口あたりに「下町」って漢字で書いてあるんです。それが、本来は私たちは「しもまち」と読んでいると思うんです。それが、ルビがないので、アナウンサーは「したまち」と読んで放映されていました。私たちが当たり前でするすると読んでしまうことはなかなか引っかけられないものなんですけど、たとえば川上（かわうえ）でも川上（かおれ）でも同じ字でそれもルビが振ってなかったのもので、外から来た人たちに親切でしっかりと歴史の言葉を伝えられるようにしていかなければいけないと感じました。新しい文化財が中津川にできたことは大変うれしいのですが、地元での読み方や当たり前で過ごしてしまうような読み方はしっかり検討して、外部の方にも親切に歴史を伝えていっていただきたいと思います。

【委員長】川合文化振興課長。

【文振課長】田島委員のご意見は、すでにいろいろなところからもそういうご意見をいただいておりますので、さらに重ねて、叱咤激励と受け止めて今後取り組んでいきたいと思います。

【委員長】そのほかご意見ご質問ありますか。

私から、今日答申書をいただいて、そのときのやりとりをご報告します。笠木会長からいただきました。笠木会長も、現地というか、今回の文化財の場所の方に何度も足を運んでいただいたというお話をお聞きしました。王滝村にも出向かれて、それでいろいろなことを王滝村の人からも役場からお聞きになった中で、今回こういう形で答申を作っていただきましたので、ご報告だけさせていただきます。

それでは、ただいまの議案につきまして、承認とさせていただきます。

続きまして、日程第2、議第5号 平成28年度中津川市教育委員会の方針と重点について提案説明をお願いします。西尾教育研修所長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】まず教育の方針と重点について、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】まず、去年はカラーの1枚ものでした。これを各先生方の手に配っておられたんですが、今年はどうなんでしょうか。

【教研所長】今年度も昨年度と同じように1枚にして作成して配付する予定です。

【田島委員】これをまず皆さんに提示して、それで今年の方針を学校ごとに形にしていこうということですね。そのときに細かい説明、質疑応答というのは、それぞれの学校の校長がされるんですか。

【教研所長】中津川市の方針と重点を踏まえて、来年度の各学校の教育計画などについての説明会は、それぞれの学校の教務主任という教育課程を管理する仕事をする立場の先生を集めて、研修会を2回行っていました。

【田島委員】そうすると、教務主任が先生方を集めて、今年はこのように提示されたので学校ではどうするということを話し合いながら決めていくわけですね。

【教研所長】十分に説明ができなくて申し訳ございません。そのとおりです。今年度の市の方針と重点について、それぞれの学校がどれくらい具現できたのかを評価していただきました。ここにあるようなそれぞれの項目について、自分の学校はどのくらい達成できたのか評価していただいたものを31校集めました。どの項目ができていてどこがまだ十分ではないといったことを分析して、それを踏まえ、2月に行った教務主任会では、中津川市は今年度学校経営や教科指導や生徒指導や特別支援教育は評価が高かったことを伝えました。自分の学校は良くできていると思われる部分もありますが、道徳と外国語活動と進路指導については、まだちょっと十分ではないという評価でした。そのことを受けて、特に道徳と外国語活動と進路指

導については、ここの重点指導内容の、28年度の文言を少し変えました。そして、こういったことを大事にして計画に反映させてくださいという伝え方をしております。

【田島委員】それを伝えられた方々が、一人一人が自分でその目標に向かっていくということですか。それとも学校単位で作っていくのでしょうか。

【教研所長】それぞれの学校で教務主任が先生にそのことを説明して、それぞれ学校の中には研修を担当する先生や道徳を担当する先生、外国語活動を担当する先生とそれぞれ役割がありますので、その先生が中心となって、来年の活動の計画を立てるという流れになっています。

【委員長】大井教育長。

【教育長】これはもちろん、校長、教頭に対してはそれぞれの会議できちんと説明をして、トップがそれを了解しながら、学校の実情に応じて、進めて参ります。ここにはさまざまな項目がありますがここは達成できているけどとか、ここは大事にしたいという学校の状況がありますので、それと反映させながら学校全体で中津川市の向かうべき方向は確認しながら、そのために我が校ではこのように学校の運営をするというふうな形で計画を立てていく。そのベースになるものがこれであるということです。

【田島委員】それぞれの先生方はそれに向かって1年間進んでいくということですよ。で、年度初めにこれを確認して、自分の学校の足りないところを確認しながら皆さんに周知するんですが、1年間の途中でそれをまた確認するときはありますか。

【教研所長】それぞれの学校によって少し違いはありますが、それぞれの学校が自校評価といって、自分の学校の職員が自分の学校の今の進捗について評価するようなことを学期末などにやっています。1学期、2学期、3学期の終わりというように、進捗を確認しながら進めているところが多いです。

【田島委員】詳しく教えていただき、今まで漠然としていたのにしっかりとよく分かりました。一つ、私は保育園に2園ほど関わりがあります。全体の保育園、幼稚園の確認はしていませんが、大きなお鍋の中の汁の味を見るときには、全部飲むのではなくスプーン1杯で大きな鍋の味は分かるという統計学もあるようですので、2園の保育士のお話なんです。目標というか、自分が何をやっていかなければならないか、子どもたちに何を目標にしてやっているからこういう指導、保育をしていかなければならないかということが確認されていないような状態が結構続いているわけです。これは、中津川の大目標、生き抜く力、よりよいひとりだちということに対して、西尾所長は、考える力、知識、知恵を使って生き抜く力の一つや考えて行動する力ということをおっしゃっており、まさにその通りだと思うんですが、保育園、幼稚園の私の知っている先生方は待てないんです。待てないということは指

示をしたくなっちゃうんです。すぐに指示をする。待つと子どもたちは考えるわけです。考えるまで待てなくて、今日一日が無事で終わりますように、今日一日やる事が無事にできますようにということが非常に強くて、待ってられないんです。余裕がない。そうすると、日々がそれで過ぎてしまうと、子どもたちが自分で考えて行動する力が付きにくいと思います。

ということは、多分確認がされてないから、自分がどんなふうに指導していかなくちゃいけない、どんなふうに保育していかなくちゃいけない、が、ある程度、さっきおっしゃった期末ごとなどでみんな確認していけば、自分がやっていることは違うということが思えるんですが、そういう確認をしていく機会が、多分、日々に追われて、ないのかなと思って、非常に心配しており、今日の質問をしました。

できれば、一番大変なのは、幼保の先生方だと思います。幼保を卒園して1年生になるということですので、生活の基盤の一番大事なところで、考える力を養う第一歩にしてあげたいと思いますので、幼保の先生方にも確認の機会を作りながら進めていただけるといいと思います。確認しているところはきっとあるとは思いますが。

【委員長】小椋幼児教育課長。

【幼教課長】今の、目標が確認されていない部分。今回の平成27年度の取り組みで、小鳩保育園の民営化に取り組んでまいりました。その中で、どう保育についていくかというような議論の中で、2年間にわたる部分がありまして、前半の1年目は行事を主に中心にやってまいりましたが、2年目はより深くというところで、保育をしっかりと振り返っていこうという形になりました。

ではどのようにして日々の保育を振り返るかということで、実際に法人さんから派遣いただいた保育士さんは日々保育を実践して体得するわけですが、振り返る機会をどう作るかというときに、今の目標、何をそもそも狙ってどう子どもたちを導いていくのか、支援していくのかというようなのを毎月毎月、週計画を作ってそれで振り返る機会にさせていただきました。これは民営化をするから作ったというわけではなくて、本来はどこの園でも行っているという部分ですが、ご指摘のようになかなかその時間が取れないというところがあり、毎月できていないというところも見受けられるということですので、関わっていらっしゃる園、公立、私立あるかと思いますが、いただいたようなところを広めるような形で次年度取り組んでいきたいと思っています。

【委員長】そのほかございますか。小幡委員。

【小幡委員】意見です。今ご説明いただいて回答もいただきましたが、本当に有り難いと思います。この小中の取り組みみたいなものは、幼保でも同じような視点で、元から一緒に育てていこうということになれば大変心強く、有り難いと思います。もう一つは、この教育の方針と重点が、非常に私から見たときに、いい形でまとめ

ていただけたと思います。と言いますのは、これが県から下りてくるときには、おそらくこの方針あたり、生き抜く力と書いてありますが、これはおそらく生きる力ということの中で一人一人に生きる力を育む指導をするというような文言で書かれてくるわけです。これでは、学校がもらっても一体何を市としてやっていくかということが見えてこないという気がします。ところが、これを、生活と学習における基礎基本の習得とたくましい子の育成を願っていくと。そのことは知識と知恵を生き抜く力にしていくということが方向として示されておりますので、自分の学校に照らしたときに、ではどういう目標を作って取り組んでいったらいいかということが明確に見えてくると思いますし、その下の3つの、機能する組織、面倒見のよい先生、身に着くまでという3つの大きな観点も、これはおそらく学校の教育目標の具現に徹する学校計画なんとかという形で示されている中身だという気がします。それではとても学校で取り組むときにうまくいかないだろうと思いますが、見事に3つの視点で切ってください、学校が取り組みやすくなっている。裏を返すと、学校教育課がおそらく学校へ指導訪問をされたときに、ここで私たちは中津川の教育を進めていくという意思表示ですので、学校の側はそれを校長を筆頭にして、全職員でどのようにして私たちがこの学校を進めるかということを考えられる。そういったものを作ってください。そこを指導していただけるという気がしますので、大変、いい形で分かりやすい形でまとめているという気がします。

そのあと、細かなことについては、それぞれ、今お話を伺うと、27年度の自校の評価をされて、何ができて何ができなかったかはっきりしているということですから、何か非常に取り組みやすいんじゃないかと。それがそれぞれの学校で数値化されていくようになれば、教育委員会がそれをつかみ、それぞれの学校もそれをつかんで、明確にその方向を出していく。そんな気がしましたので、非常に期待して見られるなど。また28年度楽しみになったという気がしています。

【委員長】原教育次長。

【教育次長】今おっしゃった通りだと思っております。ここに書いてあるのは、やはり中津川市の学校教育の根幹だと思っております。これを受けて各校長が学校の教育目標の実現に向けて、学校経営構想を立てるわけです。この根幹から下に降りるもので、中津川市の子どもを育てるとき、うちの学校はこうしていきたいということを教育長訪問のときに特に見させていただいたり、その他の訪問でも見させていただきます。その折には、そこについて各学校の学校長の経営方針がどのように具現化されているかということについても、見届けることが中津川市の教育の向上につながると思っております。

しかしながら、数値化というところについてはまだまだ弱く感じております。やはり数値で示してどれだけ上がったかを明確にしていくところが今後見届けて指導していきたいと思っております。

【委員長】 そのほかご意見、ご質問ありますか。田島委員。

【田島委員】 7ページの健康・安全教育の一番最初、「地域ぐるみで児童生徒の命を守りきる指導に徹する」という項目があります。これは、それぞれの学校で地域の方々を巻き込むということだと思うんですが、地域の方と学校の接点は非常に難しいと思います。学校についての知識が地域の方には親以外だとあまり積極的ではないし、あまり入らないと思うんです。しかし、上の段階の生徒指導のところで、「生命尊重、規律規範、基本的生活習慣」とあります。こういうところは、地域の大人たちが指導を担うという、非常に大事な部分だと思います。親は、親の年齢ですからそれ以上のことはまだ未到達だと思うので、地域の方々の担う部分は非常にたくさん子どもたちにとってはあると思うので、学校と地域の上手な連携をより強くしていけないといけないんじゃないかと思います。これはそれぞれの地域で違います。山口、坂下、加子母と、全部地域の人との関わりは違ってくると思うので、各校長先生が自分たちで工夫したことを寄せ合ってアイデアを出し合って、できるだけ地域の人と深くかかわり、地域の人にたくさんの援助をしていただけるように進めていっていただくことが大切だと思います。

【委員長】 原教育次長。

【教育次長】 やはりここの生徒指導のところ、あるいは安全教育のところは、同じ分野で進めていくということで、特に子どもたちが自ら自分の命を守ることについては、ここの上にある「生命尊重、規律規範、生活習慣」という学校で教える部分があると思います。しかしながら、地域の人に支えられたり、地域の人に叱っていただいたり教えていただいたり、そうしたものはとても大事だと思っております。やはりそうしていくと、開かれた学校というか、敷居が高いと地域の人が入って来られなくなると思っておりますので、学校自らが外へ出ていくということ、校長、教頭を含め、職員が地域に出ていくことが大事で、そうしたことによって、地域の力を借りるということもあると思います。

一方で、来年度中津川市の中津川市型コミュニティスクールというのやるんですが、評議員会があるわけですが、もっと多くの人にふくらませて学校に来ていただいて支えていただく、中心となっていていただく、そうした取り組みを来年度少し土台を作っていきたいと思っています。

【田島委員】 生涯学習スポーツ課というところもあります。その活動とリンクさせるということもあります。非常に手の届くところです。大人が一生懸命頑張っているところと学習していって、そういうところと手を結びやすい状態を作っていって、手近なところでたくさん大人の力を借りられるように図っていただきたいと思います。

【委員長】 そのほかございますか。

それでは、文化スポーツ部の方針と重点について、ご意見、ご質問ありましたら

お願いします。松田委員。

【松田委員】先ほどの教育委員会事務局の方は、どちらかというと学校向けというものだったと思うんですが、文化スポーツ部については市民向けということで、先ほどから周知するということや検証していくことが大事だという話があったんですが、文化スポーツ部としてはどう周知していくか、また28年度独自で考えていることがあればお聞かせいただきたいと思います。

【委員長】末木文化スポーツ部次長。

【文ス次長】文化スポーツ部の方針と重点について、これを直接的に市民に周知ということは、現在は予定しておりません。しかしながら、所管する社会教育委員の会や博物館協議会等といったところでご説明などさせていただき、浸透を図ってきたいということです。また、重点というところには当たらないかもしれませんが、この中の主な事業等については、また中津川市の広報なかつがわでも5月号になると思いますが重点事業として紹介されていくと思います。周知については以上です。

【松田委員】多分、広報というのはなかなか見てもらえなかったりするところがあります。8万人のヘルスアップという言葉があってもなかなかそういうことが前に進まないということは、市民もよく分かっていない部分があるから、どうしてもそういう取り組みがなかなかできてこないというところがありますし、末松先生の顕彰室もどれぐらいの人が見に来てくれたのかなと、そういうのも、ちょっとデータとしてこれから蓄積したりして、改善していくということも大事だと思います。文化スポーツ部はどちらかというと市民に対してすごく打って出られるようなところだと思うので、ぜひそういうところを訴えていただいて、どんどん活用していただけるような、そんなことに取り組んでいただきたい。とにかく外に出すことがすごく大事ですし、そこでやっぱり初めて来てくれる方もある。

ちょっと話がそれるかもしれないんですが、最近うちもネット販売、Eコマーズというので、いくつか講習会に行くと、必ず出てくる言葉で、すごく大事なことだと言われるのが、CVRという、コンバージョンレートという言葉です。転換率ということです。たとえば、100人のお客さんがホームページを見に来て、一体何人買ったか。その転換率という言葉です。たとえば楽天のカンファレンスに先日行ってきたんですが、そうするとやっぱり、何%を目指せとか、そういう話の中で、ただページを見に来る人でも、初めて来た人と、何回も来る人という中で、初めて来た人をどれだけ獲得するかがすごく大事だということをこんこんと言われるんです。

こういうことは、実は文化スポーツ部のやっていることでもすごく大事なのかなと思うんです。今まで何回も図書館に足を運んでくれたり公民館活動に参加してくれたりする人もいますが、初めての人をどうやって作っていくか。そういう取り組みというのもちょっと考え方を変えて作っていく努力もしてもらいたいかな

と思います。

【文ス次長】まだまだ発信力はいまうまくいってないところは反省するところでございます。今後もさまざまなイベントですとかいろいろな機会を通じて、一度に全てのものを発信というのはなかなか難しいかと思います。たとえばスポーツのイベントであればスポーツの部分についての取り組みなどをまたご紹介していきたいと思います。

【委員長】小林図書館長。

【図書館長】情報の発信拠点として図書館がありますので、一言言わせていただきます。文化スポーツ部に限らず、今図書館では、アナログとデジタルとで発信しております。そして、館内に来ていただければ8万人ヘルスアップのけんばちくんのシールが貼ってあったり、中山道の歴史資料館とコラボしたり、これからは藤村記念館とコラボしたり、昨日は委員長にも来ていただきましたが、市民病院とのコラボをしたり、やはりそういう本と人を結びつける、または文化と人を結びつける発信をいろいろな形で工夫をして努力をしているところです。イベントが何のためにあるかと言いましたら、今委員の言われた、初めての人に楽しいなとか、もう一遍来たいなという思いをさせるきっかけづくりでして、そのイベントが本体ではなくて、その先があるということを意識して職員にはイベントに取り組ませているところです。そういった形で一步一步努力をしておりますので、文化の発信は本当に地味なものですけれども、コツコツと図書館もまたやっていきたいと思っています。

【委員長】そのほかございますか。田島委員。

【田島委員】今は市民中心の話だったんですが、図書館についてです。提言書を作っているときには市民の核でもあるけれども、市役所の核にも図書館はならなければいけないというような形で進めていっていました。今の中津川市の各セクションと図書館の利用状況や、どのような情報として図書館に各セクションから資料が集まっているかという状況を教えていただきたいんですが。

【委員長】二村副館長。

【図副館長】今どのセクションからどの程度集まってきたり、逆にこちらからアプローチしたりということを統計として取っているわけではないので、感覚的にですが、先ほど館長が申しました病院とのコラボレーションであるとか、部の中でいえば鉱物博物館とタイアップして行事を行ったりとか、そうしたことは進みつつあるところです。

それから、あと、資料等々についても、まだ本格的に定期的に関連する部署にこちらから資料を提供したりとか、あるいは全ての各課から発信するものを全て集めるというところには至っておりませんが、ただ逆に、最近は図書館にこの決算書はそろっていますかという問い合わせが来て、そこであるとかないとか、今後はきちんとそろえていかないといけないとか、実際欠けている部分もあったりしますの

で、そうしたことが今進みつつあります。

【委員長】小林図書館長。

【図書館長】図書館単独ではないんですが、図書館くらぶとコラボしまして、27年度は月別の展示を各課とコラボしました。今観光課とコラボしております。あじめこしょうとか赤かぶの漬物とかが飾られていたりします。この前は文化スポーツ部のお城を紹介したり、いろいろな形で各課とコラボして、その展示には各課から担当者に図書館に来てもらって一緒に展示もコラボして作り上げるということで、少し風通しの良さを意識しながら、まずはそこからと思って、27年度の展示はそういう企画でやってまいりました。

それから、各課で貸し出しカードを作る。私の希望は、市役所の職員は全員貸し出しカードを持っているというつもりでおりますが、課で持ていただくということで、課で貸出するときは団体貸し出しとなりますので、長い期間貸し出しできますというアピールをしながら利用度を高めて促進している例もありますので紹介しておきます。

【田島委員】中津川図書館は大変狭いので各課の資料を全部図書館に集めて、図書館に各課の方が必要なものを見に来て、取りに来て、借り出してそして仕事をしていくということは不可能に近い状態なんです、市としての図書館の理想というものがあると思うんです。市に対する役割もあると思いますので、今の図書館くらぶの発信が1回に止まらないで、それぞれの課の人が図書館の存在や役割が認識できるように、続けて交流、図書館としては発信を、しっかりと受け取っていただけるように続けていっていただきたいと思います。

【図副館長】我々も各課との連携というのは進みつつあるんですが、まだまだこれからというところがございますので、その辺のところは今のご意見を前提に置きながらまた取り組んでまいりたいと思います。

【委員長】そのほかありましたらお願いします。小幡委員。

【小幡委員】意見です。今、中津川市のそれぞれの地区を見たときに、生涯学習、文化スポーツの果たす役割は非常に大きいと思うわけです。どういうことかという、市全体もそうですが人口減少があったりしていろいろと苦しいところがあります。それぞれの地区で今どんなまちを創ろうとしているかというところが、市民の中に広く意識として広がっていくようなことをしてもらいたい。そういう大きな願いを、ここの文化スポーツ部だけではなくて市民と共有してもらいたいと思うんです。一緒に同じ思いで俺たちはそれぞれの地区で取り組んでいるという意識をここでも持ちたいですし、地域の人たちにも持ていただきたい。それが一番大きな方針だろうと思うんです。

そこを私たちはどう進めるかということ、大きく打ち出せるように、はっきりと打ち出せるようにならないかという気がしています。あんたやれと言われてもや

れませんので勝手なことを言っていますが。地域にいて思うことはそのことなんです。一番切実に感じています。どうやったら自分の住む地区を元気のいい地区にできるか。いつも思っています。そういう人はものすごく大勢いるんですよ。ところが、なかなか力にならないというのが現実です。

では誰が一番頑張らないといけないかというと、私はここだと思うんです。行政がそういうことの指導ができなくて、皆さん頑張りましょうと言っているだけでは行政ではないと私は思っています。やっぱり一番先頭に立つのはここだと思います。ですから、どんどん打って出なければいけないという気がします。どこで一番やってほしいかというと、ここにも出てきていますが、活力ある地域づくりの推進ということで、いろいろ考えてくださっている、その通りだと思うんです。たとえば、公民館をそれぞれの地区へ民営化してやってもらおうと。それぞれの人たちにやってもらおうとありますよね。これはものすごく大きなことなんです。そこで活躍する人をどうやって作るかという、人づくりはやっぱり私たち行政の仕事だと思います。ですから、本気になって、このところに一番力を注ぐというところを、皆さん全員が思わないといけないという気がします。

それぞれ一生懸命やってくださるので有り難いんです。確か皆さん頑張ってくださると思うんですけど、それが本当に一つに、地区の住民が、私はここで頑張っているというふうに読めないのかなという感じがしています。公民館が拠点と書いてくださっていますけど、やっぱり公民館かなと思います。公民館に入る人が全地区の活動をきちんと自分の頭の中に入れていて、そういう人が何人かいて、そして本気になって地区づくりをやらないと、とてもこれは進まないと思います。そういった力のある人を育てる、つくるということが一番大事だという感じがして、そこをやってもらえないかと思っています。自分でできないのに言うんですけど、できるなら自分がやると言いますが。皆さん是非そこを頑張ってもらえないかと思いますが、どうですか。

【委員長】 大山課長。

【文ス課長】 今、先生がおっしゃったことが、このところずっと生涯学習における最大の課題なんです。今まで生涯学習という得てして講座などをやって、そこでいろいろな生きがいを見つけたり、自分の知識を増やしたりという活動が主だったわけですが、「学び、活かす」ではないですが、学んだことを地域でどう地域づくりに活かしていくかということと、それから、地域づくり生涯学習というのが県でも最大のテーマになっていますし、今全国的にもそこが言われているテーマです。ですから、小幡委員がおっしゃるように、公民館が地域の拠点となることは間違いないので、公民館を主体にどういった活動を起こしていけるかというところが、今私たちの一番模索していかなければならないテーマで、そこで公民館の拠点で活躍していただける地域をコーディネートしていただける人材を育成していこうとい

うところで、今、地域づくり型生涯学習というのを始めたところです。ただ、まだ決して大きなうねりとはなっていないですし、ほんのきっかけにしかなっていない。今日も後で点検評価のところでも同じ課題が出ていますが、そのところ、やはり一番大きなテーマとして捉えていますし、何とかしていきたいという課題として私どもは考えています。ただ、これはという手がまだ打てない段階ではございます。

【委員長】小林図書館長。

【図書館長】門外漢であるかもしれませんが、私、先ほど紹介いただきましたように今年度をもって退職をいたしますが、この間に感じたことを少しこの場を借りて、今のテーマでちょっと言いたいと思います。

地域の発展は、地域を守るために他の地域と交流をしていかなければならないのではないかと思います。地域に凝り固まっているんじゃなくて、他の地域と分かち合いながら交流していく。図書館に来ましたときに、たくさんのいいボランティア活動や人材がいましたが、それがポツポツというふうに連携を取ってなかったんですね。私がもしやったことがあるとすれば、それを結ぶことでした。作ることでなくてもともとあったんです。その素材を行政の力でもって連携させていく、交流させていく。

そして自分が行政の中に立って思ったことは、行政の中で開放がなければそれは育っていかない。管理を第一義に掲げてそこだけだと多分その一步を踏むのは大変だろうと。その責任を自分が取らなくてはいけなくなるわけですから、行政も大変なわけです。ですけれども、交流と開放がなければ自滅していくのではないかなという思いで、図書館づくりの悩んだ日々から学ばせていただきました。そういう地域の特徴を生かすために他と交流していく。そして他と交流することによって、自分たちの互いの地域の良さを認め合っていくというふうな形ができたらいいなと。実は、分館ができましたときに、その地域にお邪魔したときには、本当に敬遠されるような状態でした。ですが、今はその根気良い交流の中から大変いいネットワークができたという例もあります。途中で大変なことがいっぱいあったり、みんなで寄り添ったらいいな知恵も出るだろうと、そういう意味でもたくさんの人が関わる、そういう中からまちづくりができていくのではないかなという思いで、私、中津川に来ての感想のような意見ですが、そう思います。

【委員長】そのほかよろしいですか。田島委員。

【田島委員】今の小幡委員、小林図書館長のお話を受けてなんですが。やっぱり人口がどんどん減っていますよね。人口が減っていくということの意識が各地域にはあまりないような気がしてしまして、市としての引っ張っていく力は知らしめて認識させてそれで考えてもらうということがまず一番で、その中に交流というのが絶対入ってくるはずなんですよ。で、交流して、反対に自分の地域を隣の地域と一緒にして大きくしていこうとか、それはひいては子どもたちのためにもなるわけ

ですよね。学校が小さくなって、それを大きくしていかなければ子どもたちのためにはならないということにもつながっていくので、やっぱり学校と地域とがしっかりと連携しながら自分たちのまちを創っていくんだという意識を教育委員会から発信してあげないと、誰がやるのということですよね。一番大事な発信元であるという意識は要ると思います。

【委員長】そのほかございますか。田島委員。

【田島委員】大きな話の後で細かい話で申し訳ないですけど、公民館が大切、市民力が大切という話は皆さんが認識しているということでこの中にもたくさん入っているんですけど、またこの話をするんですけど、サポーターポイントの話です。サポーターポイントは廃止はされていませんよね。実は私は幸か不幸か公民館利用者でして、ある公民館に公民館まつりの利用者懇談会に行かせていただいたんです。そのときに、ここはサポーターポイントは使えますかと聞いたら、どうも鉱物博物館の利用者の方と重なってなかったらしくて、サポーターポイントを知っている人は利用者の中で1人もいなかったんです。そして、職員も知らなかったんです。1人だけ知っているのが教育委員会経験者の館長さんだけだったんです。という状態の公民館でした。で、サポーターポイントは作って活用されていないということで、非常に私はいらいらしています。それと、一緒に利用者懇談会にいた利用者の代表の方々からはそこで質問が出ました。8点集めれば200円、これは非常に魅力的なんです。利用者の人たちは、ほんのちょっとでも、できるだけ会費を少なくして運営していきたいという思いがありますので、どうやったらポイントがいただけるのかという話にもなりました。ですから、本当に考えていただきたいんです。原部長、サポーターポイントにキャラクターがあるのはご存じですか。サポちゃんとポイントくんでしたか。ちゃんとかわいいキャラクターがあるんです。ということは、親しみやすくしたいという思いです。広めたいという思いがこのキャラクターにつながっていると思うんです。せっかく作ったものをたくさんの方が利用して興味があると思いますので、利用できるように何とか進めていただきたいと思うんですけど、いかがですか。

【文ス課長】確かに公民館職員においても認識がない職員があると思います。まず、職員の意識を改めるために担当者会議並びに館長会等でもう一度再確認をして、そのサポーターポイントを利用できるということはあれなんですけど、私が公民館にいたときに一番難しいと思ったのは、サポーターポイントを取れる活動をセットするという事なんです。そこで、ボランティアの人を集めて何かの作業なりいろいろな活動のお手伝いをさせていただくとか、講座の受付をさせていただくとか、そういったところの仕組みを作るのは結構手間がかかるということが公民館などの場合はあったものですから、そういったところをどういった形でやっていくか。要するに、利用のピーアールとともに、ポイントを取るための活動のピーアールというのが決

定的に公民館の中ではないに近い状態だと思われます。博物館なんかでは比較的そういうのが行われていますが、公民館においては確かにほとんどないに近い状態だと思いますので、もう一度始めてまいりたいと思います。

【田島委員】わざわざボランティアを作る必要はなくて、各講座の方々がもうやる気はあると思うんです。ということは、公民館の特性に応じてその公民館独自のポイントを取れるスタイルを決めていくということもできますよね。たとえば営繕も入りますよね。掃除も。そういうことで積極的にポイントを使わせて試させてあげるという意識が要りますよね。作らなかつたら私も何も言いません。点検評価でもう廃止しますなら何も言いません。でも、点検評価のときも非常にいいものだという形で出てきていたじゃないですか。あれはただの自己満足ではいけないわけですよ。先ほどの中津川市をデザインしていくのは教育委員会だという話があったんですけど、その大きな構想の中には、小さいところからやっていって信頼を得ていくということは非常に大事なので、ぜひとも工夫をして、作ったからには進めていっていただきたいと思います。よそが使ってなければ別ですよ。たとえば鉱物博物館ではとてもたくさんの方が使っておみえですよ。ということは、ほかにも特性があって作って行ける、その工夫はもう皆さんがするしかないですよ。それともう一つ、いい紙を使っていますよね。たこ焼き屋さんや靴屋さんのスタンプだとかちょっとの厚紙ですが、両面印刷の非常にいい紙です。もう少しそういうところも安くしてもいいし、できるだけたくさんの方に還元で来ていくような方法をぜひとってください。

【文ス課長】今後こういった形でそれが生かせるか再度考えてまいりたいと思います。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。小林図書館長。

【図書館長】ポイント制度ですが。多分市民はポイントを得るというよりはまちづくりに参加することに意義があるんだと思います。それにご褒美が付いてくる。自分たちが加わることによって、図書館の例で本当に申し訳ないですが、自分たちのものになっていく、自分たちで作った、自分たちが加わった、そして自分たちのもの、自分たちの宝物という流れができて、そこに愛着が生まれていくような感じがしています。ポイントはきっかけづくりで、ご褒美で、どんな形でもいいので市民を巻き込んでいく手段の一つと捉えていただきたいと思います。

委員長 では、最後に私から一つ意見を言わせていただきます。先ほど松田委員からピーアールの話がありました。私もピーアールはすごく大切だと思います。いいものを作っても皆さんが知らなければ意味がない。たとえば、先ほど8万人ヘルスアップのけんぱちくんのキャラクターがあります。私なら子どものぬり絵を作ります。けんぱちくんキャラクターのぬり絵を作って、それを市内の子どもたちに描いてもらう。そうすると、それを描いた子どもは家に持って帰る。それをお父さんお

母さんおじいちゃんおばあちゃんが見る。そこに広がりがあります。それとか、けんぱちくんを主人公とした絵本とかを小学生に描いてもらう。それも、それを見る親とか、いろいろな広がりがあると思います。お金をかけなくても、広がり、ピーアールの仕方というのはいろいろあると思います。それを使って市民講座の人たちに何かやってもらうとか、倍々に広がっていくような、そういう人の効果を使うといいんじゃないかなと思います。よくイベントで子どもに参加してもらうという、たとえばうちでもそうですが、主催者側の意図は人がたくさん来るとのことですよ。子どもがダンスしたり発表することによって、親御さんやおじいちゃんおばあちゃんがカメラ片手にたくさん集まってくれるというのがあって、にぎやかな雰囲気を作っていただけるという、そういった観点からもうまく活用していただくといいと思います。意見です。

ほかにご意見、ご質問がないようですので、日程第2、議第5号 平成28年度中津川市教育委員会の方針と重点について、を承認とさせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、日程第3、議第6号 平成28年度県費負担教職員の任免等の内申について、提案説明をお願いいたします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】小学校から中学校の異動が4名、中学校から小学校への異動が6名とあります。これは多い方なんですか。割合的にどうなのでしょう。

【委員長】原教育次長。

【教育次長】データとしては持っておりませんが、昔はもっと多かったと思います。理由としては、やはり先ほど申しましたように、年齢の谷間がなくどの年代でもいたような気がします。加えて、今は小学校の免許だけ、中学校の免許だけというのもございますので、昔の従前と比べては少なくなっていると思っております。

【田島委員】中津川では小学校、中学校の連携を非常に強めておられるので、私は多いのかなと思ったんですが、免許の関係で行き来ができない状態なんですね。小学校、中学校の連携が強くなるためには、よく分かっている先生方が交互に行っていただけるのが一番いいような気がするんですけど、事情がありますね。

【教育次長】小学校を経験している者が同じ地域の中学校に行くというのは本当に教育効果があると思います。今後も可能な限りそうしたこともしていきたいと思っております。

【委員長】そのほかご意見、ご質問ありますか。松田委員。

【松田委員】2の教諭。ベテランの方が14名退職で新採が24名ということで、不安を覚えます。新しく教員になる方のフォローを市教委としてはどう考えていますか。

【教育次長】その通りでございます。2月29日に養護教諭の初任者4名を含めて28名の職員と面談をしてまいりました。どの子も一人一人やる気に満ちあふれ非常に新鮮でした。しかしながら、新しい赴任先についての不安や、これから子どもとやっていく不安も持っているようでした。私がそのときに一番聞いたのは、心が折れそうになることが絶対にある。初任者だから失敗して当然、そんなときどうしますかと。どの初任者も「一人で抱え込まず聞いていきます」と答えました。本当にその通りですということで、失敗はあって当然なので、本当に一人で抱え込まないということを言いました。今おっしゃったように、やはりいろいろな地域から来てくださいます。その初任者を一人前に育てることはとても大きな意味があります。

今言われたことに関しては、一つは初任者指導ということがあります。主に校長、元教頭が1人で5人ほどの初任者をみて、週に1度ほど学校を回りながら初任者指導をしていくことが今義務付けられていますので、そうした体制をとっております。また、各学校は校長以下、初任者はできなくて当然なので、いろいろな悩みを持っているので、組織で育てていただくということをしております。ある大きな市内の学校などは、本当に学年間のスクラムが強く、そこの中で育てていただいて力を付けていただいているところもあるようです。いずれにしても、今言われた通りに、非常な不安が取り巻いていますので、最初の出会いを大事にしながら、一人で抱え込ませないということを中津川市では指導していくつもりです。

【松田委員】先生方が本当に生きがいをもって仕事をしていただけることが、子どもに跳ね返ってくるということです。ただ、やっぱり若い先生方の中には、なかなか自分で言いだせない人もいるかもしれないし、ましてや、初任が担任を持ったということになるとすごい責任感を感じてやられると思うんです。そこにやっぱり誰かしら声をかけてあげる、フォローしてあげる、何か悩まないかということをしてフォローしていくということが、昔の先生と違い今の先生方には必要なのかなと思います。日本は資源のない国で、何が一番大事な資源かといったら教育だと私は思います。それを支えていく先生方の仕事は尊い仕事だということを初任の先生方にしっかり伝えていただいて、ベテランの人がフォローをしてあげるような環境づくりというのを教育委員会、学校教育課として指導して行ってほしいと思いますし、教員になった人がなってよかったと思えるような職場づくりをぜひ進めていてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

【教育次長】やはり一人で抱え込まないと思って言える者もおりますが、そう言えないときこそピンチですので、そこを汲み取れるような体制をとっていきたいと思いますし、市でも独自の初任研というものをやっています。24名が一堂に会して今の状況を語ったりする機会もありますので、そのときや、あるいは教育長訪問、各種の訪問で学校を訪れたときに、初任者には一声かけて状況をつかんでいきたいと思っています。

【委員長】 田島委員。

【田島委員】 校長経験の方々が初任の方を指導していくということですが、時代背景、その人たちが育った時代背景とか、今の方たちに合うような指導の方法でないとかやっぱり言い出せないということもあります。校長経験者は雲の上の方です。自分は初任で、お父さんより上かもしれないような方とのやりとりになっていくということになりますので、今の子はほめられて育って打たれ弱いというような時代背景もありますので、そういうことを、指導する方がしっかりと把握して、それできめ細かな指導をしていっていただきたいと思います。

【教育次長】 今おっしゃったような危ぐされたことが過去に伝わってきたこともあります。だから、同じようにやはりそうしたことも見届けていきたいと思っています。

【委員長】 そのほかご意見、ご質問ありますか。小幡委員。

【小幡委員】 ここで市内の状況が大体分かってくるのですが、当初欠員の先生方もたくさんみえて、講師が入ってみえます。こういった先生方の研修のようなものは市としてはやられるのか。そういったことはできないかと思いますが、学校で独自でやるのか。

【教育次長】 大きく3点あると思います。初任者ですと研修する機会が数多くあるわけです。大学卒業してすぐ講師という方もいらっしゃいます。1つ目には各学校で年度初め等やっていたり、年間通じてやっています。2つ目については、市独自の講師研ということでやっています。3つ目は、そうした方々がまた新たに教職の道について正式に採用されるようにということで、採用試験に向けた研修会ということもやらせていただいているところです。以上です。

【小幡委員】 講師をやられる方は多分地元の方が多いと思いますので、そういった方が力を付けていただいでできるだけ教員になっていけるようなことをお願いできれば、地元の先生が増えるので有り難いと思います。よろしくお願いします。

【委員長】 そのほかご意見、ご質問ありますか。大井教育長。

【教育長】 地元の先生がたくさん育って地元に戻って来てくれるといいということです。ここに1完、2完と書いてあります。これは初任者として1校目の学校を完了して戻ってくる者、2校目の学校を完了して戻ってくる者ということです。大体これのほとんどが地元の出身者で、この数が最近増えてきています。大変有り難いことだと。これは先ほどの講師等のところで、その後に教員になってまた自治体の学校で1校目を済ませて2校を経験してきたりして中津川に来てくれるというふうな、ある意味では育てる、育成のシステムがかなり整ってきたのかなと思っています。

【委員長】 そのほかよろしいでしょうか。田島委員。

【田島委員】 校長、教頭、教諭と退職された方々の中で、再任用の試験を受けられ

た方はどれぐらいおられるのでしょうか。

【教育次長】中津川市内では、再任用で受けられた方は4名です。4名が合格されて、来年小学校で2名、中学校で2名、中津川市の教育を支えていただいているわけです。教員、教科の免許を持った中学校の先生が足りないところですので、非常に有り難いです。また、昨日の校長会でも来年度28年度もぜひ辞められる先生に一声かけていただいて、再任用で活躍してほしいというようなことを伝えているところです。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。

それでは、日程第3、議第6号 平成28年県費負担教職員の任命等の内申について、を承認とさせていただきます。

以上で議事が終了しました。次回の日程を確認します。今井教育企画課長。

教企課長 次回は、まず臨時会から説明します。臨時会は3月24日木曜日、14時30分からお願いします。場所は4-1会議室です。次に、定例会は、4月20日木曜日13時30分から、場所は6-1会議室です。よろしくお願いします。

委員長 それでは、臨時の教育委員会につきましては、3月24日木曜日14時30分から4-1会議室、定例教育委員会は4月28日木曜日13時30分から6-1会議室ということで、よろしくお願いします。

以上で平成28年第3回中津川市教育委員会を閉会します。

【閉 会】

〔 閉 会 （午後3時43分） 〕